

91) Cranio-cervical junction AVM の  
1 手術治験例

大和田健司・中里 信和 (岩手県立胆沢病  
院 脳神経外科)

中枢神経系に発生する AVM の中で, cranio-cer-  
vical junction に位置するものは稀である。

症例は38歳男性, 突然の頭痛と嘔吐・目眩にて発症。  
入院時, 意識清明, 項部硬直を認めた。CT では TENT  
上下に広がるくも膜下出血を認め, 血管写の所見では延  
髄背面・右側面から上部頸髄に達する AVM に脳動脈  
瘤が合併していた。手術所見から AVM の本態は右  
C<sub>1</sub> 根動脈を feeder とする intradural の動脈瘤を  
伴う動静脈瘻でありシャント血流が延髄から上部脊髄に  
かけて, red veins を発達させていたものと判明した。  
Feeder 及び drainer とともに動脈瘤を摘出したところ  
血流動態は正常化し, 患者は神経脱落症状もなく元氣  
に社会復帰した。

92) 傍延髄部動静脈奇形の 1 例

太田 守・藤田 隆史 (福島県立医科大)  
鈴木 恭一・山野辺邦美 (学 脳神経外科)  
後藤 健・児玉南海雄

最近我々は, 椎骨動脈から nidus を欠き, 直接静脈  
に短絡している傍延髄部動静脈奇形の一症例を経験した  
ので報告した。症例は65才男性で, くも膜下出血にて発  
症。入院時意識レベルは30で, 右顔面神経麻痺, 右下位  
脳神経麻痺, 右半身不全麻痺, 右半身知覚障害が認めら  
れた。血管撮影では, 右 C<sub>1</sub> のレベルで椎骨動脈から直  
接異常静脈が分岐している像が認められた。1985年12月  
2日右椎骨動脈が硬膜を貫いた部位で直接静脈が吻合し  
ており, 同部を充分焼灼し clip をかけ切断した。術中  
所見からは, 椎骨動脈から nidus を介さず静脈に直接  
短絡した形式の A-V fistula であり, 稀な形態と思わ  
れたので報告した。

93) Posterior fossa AVM 7 例の経験

西澤 義彦・斎木 巖  
村上 寿治・今野 譲二 (岩手医科大)  
高橋 明・阿部 秀一 (脳神経外科)  
立木 光・土肥 守  
金谷 春之

Posterior fossa AVM は脳外科手術の困難な疾患  
の一つである。最近の 5 年間に経験した 7 例の臨床像・  
治療法について若干の考察を加え報告する。年齢は 9 ~  
72才, 女 2 例・男 5 例で, aneurysm の合併が 2 例,  
多発 AVM を一例に認めた。発症は 6 例が出血発作,

1 例が痙攣発作であった。部位別に hemisphere 3 例,  
flocculus 1 例, brain stem 1 例, IV ventricle 1 例で  
ある。治療は IP-PC aneurysm と brain-stem  
AVM の一例では neck clipping と AVM explor-  
ation, VA-AICA aneurysm と hemisphere AVM  
の一例は neck clipping と feeder ligation, 5 例で  
excision AVM を行ない, residual AVM の一例で  
二次的 excision を行なった。退院時 ADL は excel-  
lent 5 例, good 1 例, poor 1 例であった。

94) 後下小脳動脈末梢部動脈瘤の一治験例

石橋 安彦・大原 宏夫 (大原綜合病院)  
脳神経外科

症例は, 47才, 男性, 昭和60年9月16日, 突然にめま  
い, 頭痛, 嘔吐で発症し当科入院した。入院時, 軽度意  
識障害, 項部強直と両側注視性眼振を認めた。CT  
scan では, 第4及び第3脳室内血腫と水頭症が認めら  
れた。脳血管撮影で右後下小脳動脈の vermian  
branch に 4 × 6 mm 大の嚢状動脈瘤を認めた。発症  
55日目に, 両側後頭下開頭にて, 脳動脈瘤のクリッピン  
グを施行し, 術後経過良好であった。椎骨脳底動脈系の  
脳動脈瘤の中でも, 比較的稀な後下小脳動脈末梢部動  
脈瘤の治験例について報告し, 文献的に考察した。

95) Distal pica AN の 2 症例

作田 善雄・椎名 巖造 (長井市立総合病  
院 脳神経外科)

distal pica AN の頻度は, 全頭蓋内動脈瘤の 1%  
以下といわれ稀なものである。

我々は, 54才と65才の女性の 2 症例を経験したが, 臨  
床症状以外の共通所見として, CT 上第4脳室の HDA,  
Angio 上, AN 内への造影剤の pooling, そして, 手  
術所見として動脈瘤の血栓化などの特徴的な所見が認め  
られたので報告する。

なお, 54才例には neck clipping, 65才例には ane-  
urysmectomy (25 × 20 × 20mm の giant AN) を行  
い, いづれも良好な結果を得ている。

96) 脳底動脈瘤手術の問題点

佐藤 昌宏・佐藤 正憲 (福島県立医科大)  
菊池 泰裕・松本 正人 (学 脳神経外科)  
佐々木達也・児玉南海雄

過去 3 年間に 14 例の上位脳底動脈瘤を経験し, 我々が  
主に行っている subtemporal approach の術中写真  
を含め, 手術法の問題点について報告した。症例は男性  
4 例, 女性 10 例, 年齢は 38 才 ~ 69 才, 脳底動脈末端部